

令和4年度第1回光市男女共同参画推進ネットワーク会議

令和4年6月20日(月)10:00～

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長あいさつ
- 4 委員紹介、事務局紹介
- 5 会長、副会長選出

○副会長あいさつ

皆さん、改めましてこんにちは。本日、会長がご欠席ということで、代わりにご挨拶させていただきます。私はこの男女共同参画推進ネットワークに何年前から携わっています。ここ直近は、世界中がジェンダーレスとか男女の枠にとらわれない考え方が進んできていると思います。ここ光市においても、僅かですがこの会に携わっているなかで、少しずつ変化してきていると思っています。また2年間微力ながら皆さんと共に頑張っていきたいと思いますので、ご協力よろしく申し上げます。

6 議題

議題(1) 光市男女共同参画推進ネットワークの役割について

質問なし

議題(2) 第4次光市男女共同参画基本計画について

質問なし

議題(3) 身近な男女共同参画について、意見交換

○委員1

この度、初めての参加で、新鮮な形で参加させていただいている。私自身が学校と深く関わってきたからか、比較的、学校社会は意外に対等、平等な関係の中で学校教育は行われている気がする。資料を読む中で、70歳以上の価値観はなかなか変わりにくいけれども、これが若い人たちに影響を及ぼしていることがとても大きいのではないかと感じている。かと言って、70年間の価値観を変えるということは、とても難しいことで、啓発なり、具体的なものをもっと伝えていかなければいけないのかなと思う。そのなかで、P27『②「慣習・しきたり」における男女の地位の平等意識が「平等になっている」と思う人の割合』について、「平等になっていると思う」が、前回23%が今回16.3%と逆に低くなっているのは、どういう理由ですか。達成率が70.9%になっていたもので、どうなのか気になるところである。

次に、学校教育の中で性に関する教育、セクシャリティ自身が揺らぐ子どもたちがたくさんいると思うが、性に関する教育、実際にはそういうものに関わる時間的なものを学校教育の中で、すべて学校にお任せするのではなくて、地域として

やっていく必要があると思う。ジェンダーの問題は、社会の中で作られているもの、改革するのは時間がかかるし、変えていくことに重要なものを感じている。わからないことが多いので、これからも勉強させていただきたい。

○事務局

委員1から、P27 ②「慣習・しきたり」における男女の地位の平等意識が「平等になっている」と思う人の割合が、前回値より数値が下がっていることについては、アンケートでそれぞれ回答数が1,500人程度で同じだったが、このような結果となった。理由も分析したが特に見当たる理由がなかった。

性に関する教育については、P75 施策の展開例 『学校や職場等における「デートDV教室」等の開催の支援』で、市や関係機関が講演、講習に講師派遣等をしている。去年は、光丘高校、光高校で開催され参加した。皆さんも参加できる機会があると思う。

○委員2

防災について提案したい。男女共同参画の中で、防災の取り組みも是非やってほしい。地域の防災力の向上のために、避難所の設置で意思決定の場に女性に参加してほしい。そこで防災危機管理課と共催して、女性を対象とした育成講座を開催してはどうか。

○事務局

防災について、前回この計画書を策定する段階でも女性の参画についてご意見いただいた。意思決定の場に女性の参画を、国の方もその方向で動いており、市の防災危機管理課へもそのような意見があったと伝える。

○委員 3

労働関係の視点で、聞かせていただいた。P6 男女の年齢階級別労働力率で、子育て世代の比率が落ちている。確かにそうだと。私どもの職場もパート職員の比率が多く、そういう傾向にある。その中で現状を運営していくか、悩ましい問題ではあるが、お互いが子育てに関しては、柔軟に組織が対応しようと思っている。職場で改定したのは、朝の出勤が 8 時のところを、どうしても間に合わない、間に合うように急いで出勤する。これは事故や転倒につながるため、時間を 15 分単位でということで理事会が認めてくれた。それをどこまで柔軟にするかは、今後の課題ではある。

前回は話をしたが、この計画書を見て、男女平等をわが身に置き換えたとき、この環境とは全然違うところにいる。60 代だが 70 代の価値観の中で生きてきたと痛感した。職場で女性の話を聞くと、夫の家事参加が非常に乏しい、それで人生が終わってしまうのは虚しいという意見を直接聞くと、今までの自分の価値観が何だったんだろうと感ずることが最近あった。文章で男女平等と理屈ではわかるが、現実で起きないと、理解しにくいと強く感じている。計画するうえで、

実際にどういうふうに分かってもらうか、具体的にどうしたらいいのか、もっと踏み込んだ話があればいいと思う。先ほど、市長から、どんな人がリーダーになれるのか、それはリーダーの能力をきちんと設定すればいいという、話があった。男性女性ではなく、具体的に、職種の中でこれを遂行するためには、どういう能力が必要と示して男女関係なく、はかるひとつの目安にすればいいと感じた。

○事務局

委員3の職場は、フレキシブルな対応をいただいている。価値観は、それぞれの年代でいろいろあり、感覚的に相違があって当然だと思う。P38 基本理念を記載してある。いろいろな考え方があって当然と思う。「それぞれの個性と能力が活かされて希望に沿った生き方を選択できる。」いろいろな生き方、考え方があり、それがいいとか悪いとかではなく、それぞれの考え方、価値観、能力等を重視していくのが、男女共同参画の進むべき方向ではないか。

○委員4

参加するのは初めてで、何もわからない状況。資料をよく読んで勉強しようと思う。店をしていて感じるのは最近の動向で、最近の男性女性の考え方がかなり変わってきていると思っている。昔は、花屋は女性の行く所みたいな考え方があったのが、昨今では、男女ともフラッと来店することが多くなった。20代30代の男性がすごく多くて、花屋に対しても考え方が少しずつ変わってきているの

ではと実感している。私は個人的に LGBT に興味を持っており、性的少数者の方の来店では、内緒にと言われることがあり、まだジェンダーレスが行き届いていないと思っている。そういったところで、開かれた社会ができていったらと思う。

○事務局

LGBT のこともお話いただいた。計画書の P70 「LGBT 等の人々への対応」があり、P71 施策の展開例というところに記載の「性の多様性に関する教育や啓発の推進」や「性的少数者に向けた相談体制の充実」を人権教育課、学校教育課と連携していきたい。

○委員 5

私は、長く保育士をしているが、子どもたちはまだ幼く、男女の差はそこまで感じていない。ここ最近では、お父さんたちの参観日の参加率が多くなった。私の若い時と比べて、お父さんの姿を見る機会が多くなったと感じている。私も環境が、女らしく、男らしくと育ってきたので、若い時は、女の子らしく、男の子らしくと頭に入れて保育をしてきた。この勉強をしてからは、「らしく」ではなく、「自分らしく」と考えを変えてきている。「あなたらしくていいのよ」と、子どもたちのいいところを引き出していけるような保育を目指している。今の世の中では、大切なことではないかと考え始めている。

○事務局

保育の関係は、P62～P65 にかけて、「子育て・介護支援の充実」ということで記載している。施策の展開例「パパマママイスター冊子の活用」「パパの子育て応援の充実」が、参観日の父親参加率にも影響しているのではないかと思う。引き続きお願いしたい。

○委員 6

子育てサロンは、コロナ禍でここしばらくの間休止している状況だが、活動していたときには、お父さんの参加、お父さんが連れてきて遊ばれたり、関わっている姿もあった。地域での活動では、民生委員男女関係なく、子どもたちに関わる、皆で子育てを支援するという活動ができていたと思う。学校では、性別関係なく、いろいろな活動を平等に行っているし、親子揃って散歩している姿も見受けられる。地域でも女性の活躍が目立ってきているが、なかなか高齢化してきて、割合として男性が多く、若い人の地域での支援の参加が難しくなっている状況だと感じる。市長の話にあった、女性の能力を引き出す育成のような取り組みの場所を作って、女性がいきいきと活躍できるような方向づけをしてほしい。多様性を求める社会になっているので、働き方も、女性がいろいろな選択肢がでてくると思うが、個々が充分能力を発揮できるような社会になっていければと思う。高齢者は、年齢が上がるほど、男女共同参画は意識改革が難しいと思うが、全て否定されるわけではなく、昔のその時代にはそれが必要であり、それでよかつ

たという部分もあると思う。すべて否定で悪いことではなく、その時代も認めてあげて。今は人口も減ってきて、なかなか難しくなっている。女性の力も必要となってくる。働くためには、家族、男性の力も必要であるというところから、プラスアルファ意識改革、今までのこと、プラスこのような考えを視野の中に増やしていく、考え方を広げていって、広い目で捉えるという方向で高齢者の方々にも関わっていくような流れができればなと思う。個々の人権が守られ、生き方が尊重される取り組みになればいいと思う。

○事務局

P65 成果指標「地域の子育て支援拠点年間利用者数」について、人口は減っているが、これは8,160人と増えている。女性の能力活用、意識改革、生き方が尊重されるような取り組み等いろいろ、教えていただいた。

○委員7

子どもたちがいきいきと希望の持てる社会を作ろうと始まった。その中で、希望の持てる社会とは、やはり子どもの教育が一番大事ではないかと、未就園児の親子のサークル、幼稚園、小学生が土曜日に一緒に学んだり、体験したりする土曜の学校を行っている。地域の方々にお世話になっている。子育てというのは、みんなの力で一緒に育てていかなければいけないと思っている。教育によって社会が変わればいいが、それは長い年月もかかる。子育て支援も行っている。資

料をみるととても充実してきている。子育て支援の場にも、お父さんの参加が増えている。各家庭のなかでの子育てに困っている人もいるので、こちらも力を入れて行っていきたいと思う。

○事務局

教育については、P48、P49 「男女共同参画の視点に立った教育・学習の推進」で、取り組みの内容を掲載している。P49 施策の展開例では、「男性を対象とした研修会、講座の開催」いろんな方が参加しやすいような取り組みをしている。

○委員 8

娘の中学校で土曜日に参観日があり、人権教育のハートフル DAYで内容はLGBTだった。あまり詳しくなかったので、一緒に学べた。先生が生徒に、「どうしたら理解をしていける社会になるか」という問いに、「わからない」という意見が多かったが、中には、小学校の時に学校の授業でそういうことを早い段階から子どもたちに教え理解をしていけば、大人になる時には皆理解できるのではないかという意見が生徒の方から出ていた。随分、柔軟な感じに生徒たちが捉えているなと思った。先生の進め方もよく、嫌な感じではなかった。生徒たちは、「どうしたらいいかな」「そういう子もいるよね」と話していた。いま学校の新しい制服は、中学校や高校では、女子もズボンも選べるようになってきている。

社会的にも段々理解も深まってきているように感じた。土曜日だからか、お父さんの参観もとても多く、皆興味深そうに聞いているのが印象的だった。今は、名簿や履歴書などを書く欄の性別を記入する欄がなくなっていると聞いている。悩みや言いたくても言えない人たちが、生きやすい世の中になればいいと思う。

○事務局

ハートフルDAYは、人権教育課が主催した。参加者も多いと聞いている。男女の性別欄については、市役所でも申請書類等から省いている傾向になってきている。

○委員 9

私も70歳を迎えたばかりで、古い考え方の中で育ってきた。50年前に結婚して厳しい中を生きてきたが、40代後半の息子夫婦は共働きで、夫婦でよく話し合い、協力しながら、3人の子育てを上手くやっている。フラワーアレンジメント教室をしているが、以前は女性が花をするものだという考え方の中、最近、男性も参加するようになってきている。

○事務局

本日、本会議において花を飾らせていただいた。随分、会議の雰囲気も変わったのではないかと感じる。

○委員 10

初めての参加。職場で、「男性が優遇されていると思いますか」との質問で、私はそれをあまり感じたことがなく、100%女性ばかりの職場だったので、男性ばかりが優遇されているというのはなく、事務に男性がいたが、職種が全く違い、なぜ男性だけが事務職で、私たちはこんなに辛いなどと思ったことはない。それから子育てに入り、男性が働いて女性が家庭に入り、子育てをするというのは、当たり前のように感じていた。子育てが一段落して、民生・児童委員を引き受けたのち、今はパート勤めをしている。職場は女性のパート社員だけで、正社員でないのであまり意識も高くなく、男性は正社員で店長という形になるが、そこでもあまり男性が優遇されているという意識も湧かないと思った。男性が職場で優遇されているとずっと思わないで生きてきた人もいると知って欲しかった。優遇とかではないが、今の職場は、女性のパート社員の平均年齢が、40歳半ばから50歳位になっていて、若い人がいない。短時間勤務でもいい、子どもが熱を出した時も、いつでも休みを代わってあげられるが、やはり若いお母さんは働きづらいのだろうと思う。給与の面でも、正社員で働きたい方は、来ない。職場の方から扉を開いていても、やはり各家庭の事情により求職者はたくさんいないと感じている。

○事務局

P47 成果指標 ③「社会全体」における男女の地位の平等意識が「平等にな

っている」と思う人の割合は、近況値では 18.5%と低い値だが、委員 10 が言われるように、働いている人の感覚、家にいる人の感覚は、いろいろなものがあると思う。考え方によって変わってくる。給与の面は、男女の賃金格差がなくなっていく方向に動いていくのではないか。

○委員 11

20 年くらい男女共同参画に携わっている。エンパワーメントが、大切と考える。山口市で 5 月にエンパワーメントフェスタを開催した。光市からも 2 名参加されていた。

DV の関係で講演をするのであれば、岩国のマツダヨウコさんを推薦したいと思う。

質問したいのだが、アンケートの性別欄に無回答が 2 人あったが、記入忘れてったのか。

また、委員 2 提案の防災について女性リーダー養成の件、賛成である。

○事務局

エンパワーメントについては、用語集が P120 に記載してある。特に女性が政治、経済、社会、文化などあらゆる分野で、自分で意思決定し、行動できる力を身につけることが重要で、比較的新しい言葉。

イベントについては、新型コロナウイルス感染防止の観点から、なかなか開催

には至っていない。今後、講演会など、検討していきたいと思う。

また、アンケートの性別欄については、記入してなかったということだった。

防災の女性リーダーについては、防災の担当課にこういった意見があったと伝える。

○副会長

労働関係者の立場で思うことは、仕事が営業職で、いろいろな企業、官公庁等伺う。女性の営業というと、昔は生命保険の生保レディだけだったが、最近は、どの業界も関係なく、女性の営業担当が増えている。今まで無かったところで、女性が活躍しているところを近年は目にする。建設業でも、それなりの責任者の立場で女性が配置されている。近頃は、SDGsの話が出てきてから、世の中が変わりつつあると感じる。それがすべて当てはまっているわけではないかもしれないが、今後、光市でも増えてくるのではないか。

○委員 11

言い忘れていたが、マツダさんをお呼びする場合の講師料は、きらめき財団が負担します。

○副会長

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございました。いろいろな立場、職種、経験の中から有意義なご意見をいただきありがとうございます。会長

に代わりましてお礼申し上げます。今後とも光市において、特に若年層をはじめ、いろいろな世代の方が自分らしく頑張っ、さらに幸せを実感しながら暮らせるまちづくりになってほしいと改めて思いました。この男女共同参画を、官民ともに皆さんのご尽力をいただきながら進めていけたらと思います。引き続きよろしくお願ひします。

7 その他

6月23日から29日の「男女共同参画週間」に啓発を行う。市役所1階パネル展示及び伊藤公記念公園の花手水をネットワーク委員にお手伝ひいただく。

8 閉会